（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

（熊本県立高森高等）学校　令和２年度（２０２０年度）学校評価表

１ 学校教育目標

「自らの強みを活かし　一人一人が輝きを放つ学校」を合言葉に全生徒職員で総力を挙げて新入生４１人以上の確保を目指す。
１生徒の「自律」を最上位の目標とし、幅広い学力層の生徒にニーズに対応する魅力ある授業を実践する。
２深い「傾聴」と「承認」により、小規模校だからこそできるきめ細かな教育活動を実践する。
３地域との連携を強化し、本校教育活動の魅力を生徒が主体的に発信する機会を意識して確保する。
（１）学力の向上と進路指導の充実
（２）健全な心身の育成
（３）地域社会の期待に応える学校づくり
（４）あるべき姿を語り、実践する職員集団

２ 本年度の重点目標

生徒像（１）国際人として自ら考え行動できる力を育成する。
（２）質の高い魅力的な教育活動を創造する。
（３）集団を意識して行動できる力を育成する。
（４）多様性を受け止め、他を尊重する資質を養う。
職員像（１）経験を通して身に付けた能力を価値づけることができるスキルを身に付ける。
（２）質の高い効率的な組織運営を実現する。

３ 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題 （○は成果△は次年度への課題）
大項目	小項目					
学校経営	働き方改革を意識した業務改善	○生徒の「自律」の育成を見据えた業務内容の改善	○各分掌部から生徒の自主性の育成や組織運営の視点から、最低２つの業務改善を行う。	○９月までに各部から提案を行う。 ○各部からの提案を１０月～１月で検証し、次年度に繋げる。	3.8	○各部が業務改善として３～５案提案し、改善に向けて取り組んだ。 ○保護者の負担軽減も含め、次年度に向けての取組みを推進する。
	生徒･職員の総力をあげた学校の魅力の創造と発信	○入学者数４１名以上の確保	○緊急事態の今年度に適した本校のＰＲ対策を行う。	○魅力創造発信事業を活用し、生徒・職員・保護者・地域（地元議会議員・地域おこし協力隊）にアンケートを実施し､本校の魅力創造と魅力発信に関する意見を集約し､新しい取組みを実現化する。	3.8	○地域からのアンケートも実施し、総合的な探究の時間の充実を図り「魅力の創造」に繋げることができた。 また、生徒の個別名刺を作成し活用することができた。

				○運営協議員を中心として校内学校魅力化対策検討委員会を構成し、オープンスクール・学校説明会の代替策を検討し実行する。		○オープンスクールの代替として各中学校からの要望に応じて個別に対応することができた。 △次年度も感染症対策を行いながら、生徒がより主体的に出身中学校等に本校の魅力発信に関与する機会を設定する。
学力向上	個に応じた学習指導の充実と生徒が自ら学びに向かう力を育成するための授業実践	○個に応じた学習指導のための教育環境・指導体制の充実 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践	○校内検定や単元テストの実施により、基礎学力の定着を図る。 ○新学習指導要領に基づいた授業評価を行う。 ○参観授業を実施し、授業改善を行う。	○１年生は昨年度改定した校内検定（国語・数学・英語）を活用し、家庭学習の習慣をつける。 ○年間を通して、単元テストを実施し、授業の到達度を図る。 ○教育課程検討委員会を定期的に実施し、新学習指導要領に準じた評価を構築し、新教育課程を完成させる。 ○指導主事やスーパーティーチャーを招聘し、指導力の向上を図る。	3.3	○１年生の提出状況は良い。英語は合格しやすくなった。 ○生徒の感想の中で、「単元テストの方が勉強しやすい」という意見が多かった。 ○年間を通して教育課程検討委員会を実施することができた。 △国語科が県立教育センターの研究協力員等との共同研究を行った。スーパーティーチャーは新型コロナウイルス感染症の影響で招聘できなかった。来年度は実施する。
		○生徒が自ら学びに向かう力を育む教育活動の研究	○図書館活動を推進する。 ○授業でのＩＣＴの積極的な活用を推進する。	○朝読書、グローカル・プロデュースや授業以外にも様々なイベントを企画し図書館を積極的に利用する。 ○全職員が日常的にＩＣＴを活用した授業を実施する。 ○公開授業を行い、多くの方に授業を参観していただく。	3.3	○昼休みにも様々なイベントを開催することができた。 ○全ての授業で日常的にＩＣＴを活用し、授業を行った。 △新型コロナウイルス感染症の影響で、外部の方に授業を参観していただくことができなかった。来年度は実施する。
キャリア教育（進路指導）	本校に適したキャリア教育の実践と進路指導システムの充実	○個々の生徒に応じた進路支援と指導体制の充実	○進路希望に対応した指導を実施する。	○進路希望調査（年３回）全生徒への進路面談を実施し、個に応じた指導計画を策定する。 ○Classi 等を活用し、進路指導の充実をはかる。高卒就職情報ＷＥＢサービス等などＩＣＴを活用するための環境を整える。 ○資格・検定への挑戦を推進し、模試計画の見直し、夏・冬の学習会をより生徒主体のものへと変更す	3.8	○Classi などのＩＣＴを活用して進路希望調査を行った。 ○進路室におけるネットワークを構築し、ＷＥＢ求人、ＷＥＢ面接、テレビ会議システムに参加が可能になった。 ○検定試験受験を推進し、夏休み中のゼミを廃止して、より生徒主体の学習会へと変更した。その結果、漢検受験者が昨年

			○キャリア教育と指導体制を完成させる。 ○総合的な学習/探究の時間：「グローカルプロデュースの充実を図る。	る。 ○生徒自身がキャリアパスポートを作成し、自己の変容を可視化できるように、職員が共通理解をもって取り組む。 ○地域、大学等との連携を密にし、総合的な学習/探究の時間での連携や出張講義等を実施する。		度３３名から６４名、英検受験者は１０名から２２名へと大きく増加した。 ○キャリア・パスポートへと移行し、さらに電子データ化へと大きな変革を図った。 ○熊本大学、熊本県立大学、早稲田大学大隈塾などと連携した取組みを行った。 ○総合的な探究の時間では高森町役場、地域おこし協力隊と連携して外部人材の活用を行った。 △個に応じた指導体制をより支援するための構造的な改革を行う必要がある。
生徒指導	情報モラルの遵守と基本的生活習慣の確立	○情報モラルの遵守とＳＮＳ使用のルールの再構築	○ＳＮＳを介した問題行動の未然防止、早期発見に努め、様々な機会を捉えて情報モラルについての意識を高める。	○高森警察署と連携して情報モラルＬＨＲを１０月に実施する。 ○第２回後援会総会での各部連絡を通して家庭へ注意喚起と連携強化を呼びかけ、各家庭での携帯電話のルールを確立する。 ○全国・県内のＳＮＳ関連事案を紹介し、必要に応じて臨時全校集会等を実施し注意を喚起する。	3.1	○計画通り実施することができた。来年度以降も感染防止や気候を考慮して計画していく。 △保護者、家庭への注意喚起や連携強化を計画的に進めることができなかった。 ○ＬＨＲや式典後の諸連絡等の時間帯を利用し、継続的に注意喚起することができた。
		○基本的生活習慣と交通安全への意識の向上	○各生徒が進学・就職決定を意識した生活習慣を身に付ける。 ○集会や安全点検等を実施し、交通違反、事故をなくす。	○挨拶指導、服装指導、遅刻指導を実施する。 ○様々な時間を活用して身だしなみについて説明を行い、身だしなみに対する意識を向上させるとともに、頭髪服装検査を撤廃する。 ○定期的に自転車・原付通学生集会の実施と交通ルール・マナー遵守の説明及び安全点検を実施する。	3.1	○見過ごすことがないよう心掛けながら、適宜指導することができた。また、全職員と連携して進めることができた。 △１月現在で撤廃とはならなかったが、昨年度から曖昧になっていたルール等を確認することができた。 △原付にかかわる指導が多かった。 ２月には対象生徒を集めて、安全集会を実施した。
人権教育の推進	命を大切にする心を育む指導	○自他の大切さを認め、互いの命を大切にする人権感覚の	○生徒一人一人が多様性を認め、自他の大切さを尊重し、生活の中で自ら気付き	○人権教育ＬＨＲ実施する。（年３回） ○全校集会を実施する。（月１回）	3.1	○感染対策を十分にしたうえで、人権教育ＬＨＲ（年３回）・全校集会（月１回）を実施することができた。

		育成	選択・判断し、行動できるようにする。 ○教職員一人一人が、人権の意義・重要性や様々な人権問題についての基本的認識を深め、お互いに教育実践上の課題や情報を交流しあうことができるように、ＯＪＴとＯｆｆＪＴとを組み合わせながら効果的な研修の充実を図る。 ○特別支援教育委員会や分掌部等校内での報告・連絡・相談による連携強化と、家庭訪問や人権教育の啓発等による保護者との連携、行政機関、小・中・義務教育校、その他関係機関との連携を図る。	○校内での職員研修を実施するとともに、校外研修への積極的な参加を促す。（校外１回以上参加） ○人権教育推進委員会と特別支援教育委員会を合同実施し情報共有を図る。 ○全校集会に合わせて人権教育に関する文書を作成し、保護者に向けて啓発活動を実施する。 ○高森町人権同和教育推進協議会研修に参加し、他校種の先生方との情報交換、連携を図る。（年４回）		○校内職員研修は、例年通り実施することができた。 また、県作成の動画活用・「めぐみ」視聴など、新たな取組みができた。 △新型コロナウイルス感染症の影響で、校外研修が中止となり、職員の参加が難しかった。来年度、校外研修が実施される際には、積極的な参加を促していく。 ○隔週で人権教育推進委員会と特別支援教育委員会を合同実施し、情報共有を図ることができた。 ○「人権だより」を２か月に１回のペースで作成し、Classiを用いて保護者に配信した。来年度は、全校集会の内容に限らず、学校での人権教育に関する取組を周知していく。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で研修が中止となり、他校種の先生方と対面で情報交換・連携を図る回数は減ったものの、授業担当者会や主任会を通じて連携をすることができた。
		○一人一人の教育的ニーズに対応した持てる力の育成	○学年会や校内委員会等で職員の横の連携を密にし、困り感を抱えている生徒の早期発見・早期対応へと繋げる。	○定期的（年３回）に、生徒理解研修を実施する。 ○保護者による気づきメモや心の問診票を活用する。	3.1	○４月、７月、８月と例年通り実施した。 高校入学後に学校生活での困り感を顕在化させる生徒が毎年おり、春休みの中学校訪問の際気になる新入生については、学校や家庭での過ごし方について、より多くの情報を聞き取る必要がある。 ○保護者による気づきメモを集約したものを職員会議で情報共有したほか、心の問診票はＳＣと担任との生徒理解研修で活用した。また、問診票でストレス値が高

				○ＬＨＲでストレス対処教育を実施する。 （１年は２回、２，３年は１回） ○ＳＣや北部発達障がい支援センターなどの外部専門機関と連携を図る。 ○個別の支援計画等を作成する。 （１学期） ○学びのＵＤ化をテーマとする職員研修や公開授業を行う。		い生徒については、なるだけ早期にＳＣの面談を行った。 ○１学年は６月と１１月に２回、２，３学年は９月～１１月にかけて１回ずつＳＣ主体で実施ができた。振り返りシートの感想を見ても、生徒の反応はとても良かった。 ○困り感を抱えていそうな生徒は早期にＳＣの面談を実施した。６月と１１月に北部発達障がい者支援センターの職員に授業を参観していただき、そこでの生徒観察をもとに教育支援会議で困り感解消のための手立てについて職員に助言をいただいた。 ○夏休みまでに担任の協力をいただいて個別の支援計画と指導計画を作成し、ＳＣなどに助言をいただいた。 △次年度は、１２月の公開授業月間で職員が「学びのＵＤ化の視点で互いの授業を参観し合う」ということを事前に周知する。
いじめの防止等	いじめを見落とさず､いじめを許さない環境づくりの推進	○いじめを許さない姿勢の育成と、いじめの早期発見のための組織的な取組み	○いじめの未然防止や早期発見に努め、いじめが起きた場合は迅速な対応ができるよう、学校と保護者・専門機関との連携を強化する。	○全校終礼等を活用した道徳教育を実施する。 ○ＬＨＲでストレス対処教育とあわせてＳＯＳの出し方教育を行う。 ○スクールサインを活用する。 ○心のアンケート（年３回）の集計結果についていじめ防止対策委員会で分析し、職員研修で情報共有を行う。 ○いじめの被害者及び加害者とＳＣ	3.6	○終礼ではなく、４時間目終了後に全校集会を開くことで、すべての生徒が職員の講話を聴けるようになった。 ○各学年とも９月～１１月にかけて１回ずつＳＣ主体で初めてＳＯＳの出し方教育をストレス対処教育と併せて実施した。「ストレスマネジメント」をテーマに、上手なストレス解消について講話をしていただき、生徒の反応も良かった。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止休校期間中の学年別登校日に、スクールサインの活用について担当から呼びかけを行った。 ○心のアンケートは各学期実施し、いじめに繋がる事象の有無を確認し、いじめ防止対策委員会で事象の検証等を行った。検証結果や対応方法等に関して、職員研修で共通理解を図った。 ○日々の生徒の見守りを通していじめに繋

				の面談を継続して行う。		がる言動が観られた場合や対人関係に悩む生徒に関しては、管理職に報告し、学年団や、必要に応じて全職員間で共通理解を図り、即時に対応した。 また、教育相談主任を交えて、ＳＣと連携し、カウンセリングに繋ぎ、早期解決に向けて取り組んだ。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨｰ・ｽｸｰﾙ等）	地域との連携を強化し、地域の期待に応える学校づくり	○生徒・職員一人一人による地域連携	○生徒・職員一人１回以上地域の行事やボランティアに参加する。 ○移行したばかりの総合型コミュニティースクールを通した地域との連携を強化する。	○総合的な学習／探究の時間を中心とした教科活動や各種学校行事、特別活動で地域連携に繋がる活動を行う。 ○運営協議員への本校教育活動の魅力の啓発を継続的に行い、年２回実施する運営協議会を通して、本校の魅力（強み）の強化・ＰＲ策や課題解決の改善策を検討・実施する。	3.7	○コロナ禍で回数は減ったが、地域の協力でボランティアに参加し、社会福祉協議会の協力でボランティア講座を学校で実施することができた。また、総合的な探究の時間では、高森町・南阿蘇村の議会議員、地域おこし協力隊員、役場職員さらに、阿蘇ジオパーク推進協議員の助言を受けて、探究活動を勧めた。 ○総合型コミュニティースクール初年度であった。コロナ禍で学校行事に参加していただく事も出来ず、第２回目は書面による開催となったが、ご意見を参考に次年度に活かす。
健康安全育	健康教育・保健教育の推進	○心身の健康管理能力の育成	○自己の心身の状態について関心を高め、正しい知識を習得し、適切な対応がとれるようにする。 ○新体力テストの個々の記録を向上させる。 ○適切な健康管理ができる力の育成を図る。特に定期健診後の受診勧告で、医療機関への受診を促し、改善に努める。	○生徒・職員を対象に応急手当講習会や薬物乱用防止及び喫煙防止教育について、講演会や研修会を実施したり、保健や家庭科等の授業との連携を図ったりする。 ○授業などの学校生活の中で、継続した体力向上プログラムを実施する。 ○保健だよりや食育通信等を発行する。 ○受診勧告後の受診率を上げるために、集会やClassiで受診するよう連絡をしたり、保護者への協力を依頼したりする。	3.2	○新型コロナウイルス感染症の影響で、応急手当講習会は実施できなかったが、薬物乱用防止講演会は実施した。保健の授業の中でも薬物の危険性や喫煙における影響など学びを深めた。 ○体育の授業で体力面における学校及び各自の課題を把握し、その改善に向けたプログラムを作成した。継続的に実施している。 ○保健だよりや食育通信など定期的に発行できた。 △病院受診が厳しい中、積極的な受診勧告ができない状況であった。次年度は受診の必要性を個別に説き、受診勧告、受診報告を徹底し、受診率アップに繋げる。

	環境教育と防災教育の推進	○環境の維持保全に寄与する態度の育成	○各教科・学校行事において、環境問題に関する学習を実践する。	○「学校保健計画」と「学校安全計画」に沿って、各教科で環境教育を実施する。 ○学校近隣への清掃活動ボランティアや美化活動の充実を図る。 また、一日一汗運動や風鎮祭片付けボランティアなどの機会を利用した活動を推進する。	3.2	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクの着用やこまめな手指消毒、換気、湿度の確保などに取り組んだ。 ○２学期は一日一汗運動で、高森駅及び高森交流会館で清掃活動を実施した。 また、ボランティアで高森町「風と森の会」の清掃活動に参加した。
			○安全点検を実施し、不備な場所を早期に発見し改善をする。	○毎学期、安全点検を実施し、改善箇所に関して事務部と連携し対応する。		○担当に依頼し安全点検を実施し、改善箇所については事務部と連携し速やかに対応することができた。
			○学校版ＩＳＯについて生徒が主体となって取り組む。	○学校版ＩＳＯの取組みの一環として、ゴミの分別や節電などに取り組む。特に美化委員の活動を活発にする。		○新型コロナウイルス感染症の影響で、常時換気を行っていた。その中でも、生徒たちに呼びかけをし、未使用教室の消灯など節電を実施してきた。 △美化委員の主体的活動の場面を増やす。
		○防災意識の向上と自助・共助の意識の育成	○防災訓練と防災教育を通して、防災に関する意識の向上を図る。	○避難訓練やシェイクダウン訓練等を実施し、防災に関する意識の向上を図る。 ○防災ＬＨＲを各学年実施する。		○避難訓練及びシェイクアウト訓練を実施した。 ○避難訓練の時に、各クラスで、防災に関する映像を生徒達に見せて、自助、共助について学びを深めることができた。 東日本大震災から１０年を迎え旧大川小学校からの中継をＺＯＯＭで繋いだ「防災と命の授業」を通して、防災意識と命への敬意を高めるためることができた。
			○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策下での、自助・共助について確認する。	○各地域の避難所や「新しい生活様式」の中での避難の在り方の確認と、避難所運営方針の再検討を行う。		△「新しい生活様式」に基づき、三密を避けた避難所運営の方針や発熱などがあった時の避難所への受け入れについて検討する必要がある。

４ 学校関係者評価

【学校関係者評価委員による評価平均】

学校経営3.5　学力向上3.5　キャリア教育3.6　生徒指導3.1　人権教育の推進3.1　いじめ防止等3.2　地域連携3.3
健康安全教育3.4

※生徒指導、人権教育の推進、いじめの防止等、地域連携、健康安全教育の５項目に関しては、「努力が必要である」とのご指摘があり、生徒指導では「かなりの改善を必要とする」とのご指摘があった。

【評価していただいた内容】
○コロナ禍で生徒の様子を見て判断することができず、アンケート結果等で判断せざるを得なかったが、少人数を生かし全体的には良く取り組まれている。生徒の自律を最上位の目標として、前年度の成果と課題を踏まえＰＤＣＡサイクルで取り組まれていることに感謝する。
○コロナ禍にあって試行錯誤しながら別の方法を考えて効果を出している。先生方がしっかり振り返って評価されていることを読み、生徒の様子を随分感じることができた。
○高森高校の生徒が様々な場面で活躍されている姿を見て頼もしく感じている。
【ご指摘やご助言を頂いた内容】
○いじめ防止に関して、保護者88.7%、生徒97.5%と良好な評価の数値に差があるのは何故だろうか
○アンケートの生徒・職員・保護者の三者比較において、「学校の魅力の創造と発信に努めた」は職員が83.3%、「地域の期待に応える学校づくりに努めた」は保護者が70.8%、「図書館やＩＣＴを活用し授業実践・教育活動に努めた」は保護者が88.7%と三者比較で最も低い。
１ 教職員の魅力ある学校づくりの更なる推進を期待する。
２ ＩＣＴ等の高森高校の特色を地域・保護者に更に発信し、学校運営協議会の機能を生かし地域連携により地域の期待を高めて欲しい。
３ 入学者数４１人を目指す方向で評価を生かすことが大切である。

５ 総合評価

各部が「自律」を意識した業務改善に取り組んだこと、コロナ禍での新しい取組みは評価された。しかし、コロナ禍で保護者は勿論、学校運営協議員、地域の方々に参観していただく事も出来ず、学校関係者評価委員会は書面開催となった。今年は歯科や耳鼻科等の受診を勧めることが難しい状況であったこと、運営協議員や保護者と教職員とで１年間の取組みに関して直接意見を交わすことができなかったこと、生徒の様子を見ていただく事ができなかったこと等が評価に影響したと考えられる。

「いじめ防止」、「地域の期待に応える学校づくり」、「図書館やＩＣＴを活用し授業実践・教育活動に努めた」に関して保護者の数値が低いのは、情報提供不足が一因であることは否めない。特に、「いじめ防止」に関しては保護者と情報を共有し、保護者のサポートを受けて、成長過程にある生徒の心の育成に努める必要がある。また、学校の魅力の創造と発信に関して職員の自己評価が高まる施策が今後さらに必要である。

６ 次年度への課題・改善方策

（１）学校運営協議会の機能を生かし地域連携を強め、グローカル・プロデュースの探究活動の支援・指導助言に繋げるとともに、スーパー・グローカルハイスクール事業を推進する。
（２）ＩＣＴの活用を基本に、本校の取組みを保護者はもちろん県内外にも、広く情報提供に努める。
（３）職員一人一人が地域の期待に応える学校づくりを意識して、分掌部を主体に本校の魅力の創造と発信に努める。